

6月	矢作川 愛護モニター報告	モニター区間	矢作川: 左右岸 15.0km～21.0km 管轄出張所: 岡崎・安城出張所
実施日	令和 5 年 6 月 5 日	実施区間	18.0km ～21.0km (右岸)

渡橋付近 意外に低水量 「線状降水帯」の影響は

昨年7月から始まったモニターも、12回目、丸1年となる。今回は、線状降水帯が猛威を振るった直後の5日(月)に実施した。

あれだけ雨が降ったのだから、水位もかなり上がっているだろうと思っていたら、全く予想外であった。

水は濁っていたものの、水量はさほど多くなく、草地の部分も多く見られた。

矢作川の洪水対策は、うまくいっているということなのだろう。

堤防と護岸の整備続く 渡橋～美矢井橋間

次に、渡橋と美矢井橋の間の右岸を見ていった。右のような看板で分かるように、洪水被害を防ぐための工事が当日も行われていた。

写真のような、大型掘削機で6月末まで行われているようだ。一方、今回ニュースで「水につかった地域」が三河地方で何か所か報じられたが、それらは「中小の河川地」の周辺が多かった。それは、何を意味するのだろうか。中小の河川の洪水対策は、まだまだ改良の余地があるのだろうか。私の出身地である豊川市では、実家の庭が少し水につかったと聞く。

豊川市の金沢地区の浸水は、高校時代以来だから、実に50年ぶりだ。洪水対策の難しさが分かる。

作業事務所に産業廃棄物ゴミ

作業が続く右岸堤防には事務所があり、産業廃棄物と記された大きなゴミ袋があった。洪水対策等の仕事に携わる人の苦労を想像した。



①線状降水帯の影響、あまり見られず？！



② 整備続く、渡橋～美矢井橋堤



③ 重機による作業が続く 18.6Km付近右岸



④産業ゴミなどが集積された作業事務所